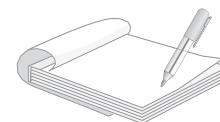


子どもとメディアに関する意識調査 ～コロナ禍の影響をさぐる～

- 従来の調査との違い
従来の「テレビ、ゲーム、スマートフォンや携帯電話の使用、インターネットなどの利用」に加え、今回はコロナ禍の中で学校の対応(休校状況)と子どもたちの家庭での学習状況を新たに付け加えました。
- 回答数
全国の小学5年生(2,670人)とその保護者(2,543人)、中学2年生(2,407人)とその保護者(2,277人)が回答しました。回収率は8割を超えています。
岩手県の調査協力校は鵜飼小学校と滝沢南中学校です。
- 時期 令和2年10月4日～17日

調査結果 (一部抜粋)



Q. 「休校中の自宅での学習をどのようにしましたか」

	小学生	中学生
1	先生の指導で、自分で教科書・補助教材(デジタルを含む)で学習した(59.5%)	先生の指導で、自分で教科書・補助教材(デジタルを含む)で学習した(58.3%)
2	保護者に助けをもらい、教科書・補助教材で学習した(26.8%)	自分の考えで学習した(31.8%)
3	自分の考えで学習した(22.3%)	保護者に助けをもらい、教科書・補助教材で学習した(11.5%)
4	保護者に助けをもらい、通信機器を使って学習した(7.7%)	先生の指導で、自分で通信機器を使って学習した(4.4%)
5	先生の指導で、自分で通信機器を使って学習した(2.2%)	保護者に助けをもらい、通信機器を使って学習した(4.2%)

- ◆ トップは小中学生ともに同じですが、中学生になると、少し「自学自習」の構えが生まれてくるようです。小学生は保護者の役割が大きくなっています。

Q. 「休校中の自宅での学習で、よかったこと、困ったこと、心配だったことはありましたか」(一部)

	よかったこと	困ったこと	心配だったこと
小学生	<ul style="list-style-type: none"> 自分のペースで勉強できた 2学期の予習ができた 読書のペースが速くなった タブレットを使って漢字などを調べた 	<ul style="list-style-type: none"> ゲームをたくさんして最後の方で困った 教えてもらってないので、勉強が少しできなくなった 質問したいとき、すぐに聞けなかった 	<ul style="list-style-type: none"> 1学期分の勉強がどうなるか心配だった 勉強が遅れて心配だった わからないことがいっぱいあった
中学生	<ul style="list-style-type: none"> 時間があり、苦手な教科の克服ができた 1年間の予習、復習ができた 自分なりの勉強方法が見つけれられた 	<ul style="list-style-type: none"> Zoomだとわかりにくい インターネットの時間が増えて勉強時間が減った スマホの時間が増え、学習のやる気がゼロになった 	<ul style="list-style-type: none"> 今年の勉強が終わるか心配 学校が始まったらみんなに置いていかれないか 何をどうやって勉強すればいいかわからなかった
小保護者	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの得意、不得意がわかり、一緒に見直せた 課題が出たので、TVやゲームの時間が増えず助かった 授業配信で先生の工夫があり、とてもよかった 	<ul style="list-style-type: none"> 生活リズムが乱れ勉強が計画的に進めなかった インターネットがないので困った 子ども一人での勉強の取り組みが難しかった 	<ul style="list-style-type: none"> 学習の遅れが心配だった 宿題の量が少なくて心配だった カリキュラムどおりの学習ができず、学力低下が心配
中保護者	<ul style="list-style-type: none"> 自主的に計画を立て自分のペースで進めていた 定期的に先生が電話をくれて勉強の進み具合や体調のことを心配してくださった オンラインやタブレットを使った学習など時代に合った学習方法が身についた 	<ul style="list-style-type: none"> 課題をやらずに、声をかけても反発するだけだった YouTube視聴時間が増え、時間の管理がルーズになった 何をどう学習してよいかわからず、学習中のわからないところを聞けずに困った 	<ul style="list-style-type: none"> オンラインやプリントのみの勉強で、きちんと学習できているのか心配だった 課題が多すぎた 課題をやるだけで大丈夫か このままで受験に間に合うのか不安だった

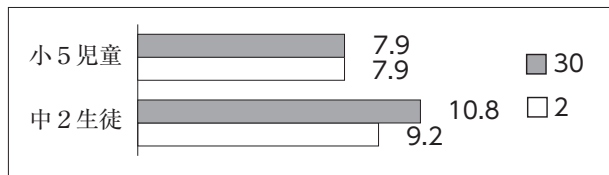
◆ プラスのコメントと「困ったこと」や「心配だった」ことの比率は3：7ほどです。

Q. 「休校中、テレビの視聴にどのような影響がありましたか」のうち、「視聴時間が長くなった」の割合

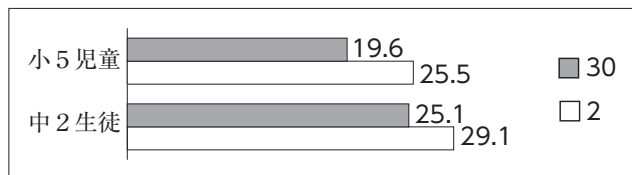
小学生（87.1%）、中学生（90.7%）、小学生保護者（98.4%）、中学生保護者（97.7%）

◆ 子どもたちの在宅時間が長くなったことにより、テレビ視聴時間が確実に長くなっています。

Q. 3時間以上ゲームをする割合（平日）



〃 （休日）



◆ 3時間以上ゲームに熱中している子どもが、小学生で約25%、中学生で約30%と増加しています。

Q. 「休校中、ゲームをする時間にどのような影響がありましたか」のうち、「ゲームの時間が長くなった」の割合

小学生（89.2%）、中学生（94.9%）、小学生保護者（98.0%）、中学生保護者（98.8%）

◆ コロナ禍において子どもたちのゲームに熱中する時間が増えていて、それは保護者も実感としてとらえています。

Q. 「休校中、スマートフォンや携帯電話を使う時間にどのような影響がありましたか」のうち、「使う時間が長くなった」の割合

小学生（80.1%）、中学生（95.5%）、小学生保護者（91.7%）、中学生保護者（98.2%）

◆ コロナ禍で子どもたちのスマートフォンや携帯電話の使用時間は確実に増えています。休日の中学生の使用時間で「4時間以上」使っている子どもは33.8%います。

中学生で約3割の生徒がゲームに3時間以上熱中し、4時間以上スマホを利用していることになり、これらが複合化すると「依存症」になりかねません。

◆ ところが、「スマートフォンや携帯電話利用のルール」がないと回答する小学生が37.5%、中学生が33.1%います。この傾向は、「インターネットの利用」についてもあてはまります。

Q. 「休校中、インターネットを利用する時間にどのような影響がありましたか」のうち、「利用する時間が長くなった」の割合

小学生（89.5%）、中学生（95.4%）、小学生保護者（97.6%）、中学生保護者（98.8%）

◆ 子どもたちも保護者も、インターネットの利用にコロナ禍の影響があったと考えていて、その内容は「利用する時間が長くなった」という回答が圧倒的です。

休校中の家庭での過ごし方が浮かび上がってきました。

- テレビの視聴時間、ゲームをする時間が確実に長くなっています。
- スマートフォンの所持率が上がり、その用途も多様化している中で、保護者の中では利用時間の「長さ」への関心は薄いようです。
- 休校時での自宅学習に対してはマイナスのコメントの方が圧倒的に多くなっています。

これからは一人1台タブレット端末を使える時代になりますが、子どもだけに任せると、学習の仕方に格差が生まれてくるのが懸念されます。学校と家庭が協働して、ギガスクール時代のメディアとどう向き合っていくかということを検討していく必要があると思われます。